

宮古農民の人头税廃止運動 島尻勝太郎
「土地整理」に関する一考察

西原 文雄
金城 功
安仁屋政昭

明治期の沖繩の糖業
移民と出稼ぎ

——その背景——

田港 朝昭

大正・昭和期の労働運動

——その発掘と考察——

沖繩近代史における本島と先島
——「差別」の構造と克服主体の形
成——

西里 喜行
仲地 哲夫

伊波普猷論覚書

付録 近代史研究の意義と課題
——各テーマを通して——

共同執筆

(A5版 二八〇頁 昭和四五年五月 那覇
市寄宮 中央図書館内 沖繩歴史研究会刊
頒価九〇〇円) (熱田 公)

W・アルマン著
鈴木章訳

中世における個人と社会

著者はケンブリッジ大学の中世史担当教授で、本書はアメリカ、ジョンズ・ホプキンス大学での三回に亘る講演をもとにして書かれたものである。訳者は社会経済史研究の成果をふまえて中世イギリス国制史の研究に野心を燃やしておられる方で、本書は丁度うってつけの訳者を得た。

一見奇妙な演題がつけられているが、第一講では、中世初期においては、キリスト教とか神とかに根ざす王権から発した上からの秩序づけという政治理念が支配的であったとされ、そこから、ヨーロッパ中世の封建的ヒエラルヒー、それへの個人の埋没が説かれている。

しかし本書の圧巻は第二講にある。すなわち、封建制度のなかに、実は、強い個人的な絆によって動かされているものがあったこと、また、契約と同意との尊重という理念に基づくものがあつたことが指摘され、

その歴史的発現をマグナ・カルタに求め、封建的ヒエラルヒーに呻吟していた臣民の国政参加、市民化の意義が、ドイツ・ファシズムの重圧を体験した教授自らの姿の如く、熱気をはらんで強調されている。こうしてマグナ・カルタを出発点とするイギリス・コモンの力強い発展が始まるが、これがイギリスの各階層の平等化をもたらすし、色々な手直しを経て、同質の、しかも統一ある王国共同体社会を生み出すこととなると説かれる。教授によれば、これこそが、イギリスをして大陸諸国に先んじて近代化のトップを切らした所以であり、またその栄光は、中世千年間のイギリスにおける法尊重の貴重な伝統の上に立ってはいじめてから得られたものであつたと示唆されている。

第三講ではいわゆるルネサンスが説かれるが、それも、中世思想家の中にみられる個人の尊重、人間の自由の尊重が思想史的に解説され、封建制度が近代化への重要な橋渡しをしていることが強調されている。

ともすれば、中世は、近代に反するもの、近代がのりこえてゆくべきものとして考えられがちであり、その否定面のみが強調さ

れすぎている感がある。こうした一般の動向に対して、中世封建制度の中に近代化の萌芽を育ててゆくものがあつたことを指摘し、中世の肯定面を強調した点は注目されるべきである。

しかし、イギリス封建法の近代化への役割を強調する余りに、教授のコモン・ロー理解がきわめて包括的になりすぎた点が惜しまれる。歴史的に個有名詞的な意味をもつべき封建法が、いわば普通名詞的に超歴史的なコモン・ローに比定され、しかもそのコモン・ローは国家の法、近代国家の法であるとして敷衍された感がある。教授の理論の核心がそこにある限り、その間の飛躍にいささかの疑問を懐かせられる。また割り切つてしまえば、イギリスにおける封建法の強さ、コモン・ローの重さが、イギリスをして近代化を早からしめたという教授の理論に対しても、イギリスが大陸諸国に比して、果して封建法が強かつたといひ切れるかどうかという疑問と、封建法の最も強かつたイギリスが近代化のトップを切つたという理論構成に対する、例の周辺革命的理論からする疑問も投げかけられるであらう。ともかくきわめて斬新な発想

を含む野心作であるだけに、学界に投ぜられた波紋も次第に大きくなってゆくのではあるまいか。

(B6判二七〇頁 昭和四五年九月 ミネルワ書房 定価八二〇円)

(富沢 靈岸)

委員会だより

◇ 急ピッチで刊行のおくれをとるもどす、ということにやっきになっておりますが、年度末の印刷所の超繁忙のため、なかなか思うにまかせません。印刷所のこうした學術論文の組版部門が繁忙をきわめていていることは、四五年年度の仕事が年度末に集中しているため。いわゆる「大学紛争」はこの面で、今なおわれわれ学会に大きな影響を与えつつある、と申さねばなりません。以上弁解としてはなく、客観的事情として。

◇ ずい分多数の各位から会費前納にご協力いただき、あつく感謝いたします。しかしまことに残念ながら、赤字の大きい方も若干あります。六月のボーナスでは必らず完済いただけますよう、今からとくにお願ひ申しあげます。多額の赤字の方はどうも

きまつた方のように、これは「社会的信用」に關する、重要な情報であるはずです。六月のボーナス時で、清算されることを期待いたします。

正誤表

五三巻三号所載 鈴木国広「鎮西島津寄郡の歴史的位位置」に次の誤植がありましたので、訂正いたします。

頁	段行	誤	正
3	下 6	国衛直領	国衛直領
14	上 19	公領八十六町	成枝八十六町
43	上 11	重複	重視

一九七〇年八月二五日印刷
一九七〇年九月一日発行 定価三〇〇円

史 林 (第五三巻第五号)

発行人 史 学 研 究 会

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

理事長 織 田 武 雄

京都市下京区西七条御所ノ内中町五〇

印刷所 中村印刷株式会社